

おう！感謝せえよ！

★兵庫県 猪名川水系  
☆北田原虹鱒釣り場

その昔、一般河川に出かけてもフライフィッシャーをお見受けすることは殆ど無かった。

殆どと言つよりも、私が出向く関西圏の河川では皆無に近かったかもしれない・・・今よりも釣行回数は多かったにも係わらず、シーズン中に一度出会うか否かだった。

そんな状況でも、確実にフライフィッシャーに出会える場所があった。ひとつは当時よく通った心齋橋にあったフライショップ、そしてもうひとつは近場の猪名川でシーズンオフに営業されている「北田原虹鱒釣り場」で、当時からこの管理釣り場は「ルアー・フライ専用区」が設けてあった。

今では「小柿溪谷」や「籠坊」もしっかりと専用区が設けてあるが、当時は「ルアー・フライお断り」の釣り場で、勇んで出かけても門前払いを喰らって、気分を害したものである。



しかし、この「北田原のルアー・フライ専用区」は今から思えば不思議なくらい皆の釣りがパターン化しており、よくよく考えると、暗黙の了解となっていたのかも知れない。

「こゝからの話は非常にローカルな話で、一度この「北田原」を訪れた方であれば判らない内容で恐縮だが・・・

どゝも同じく夜明け頃から釣り人が入りだすが、フライオンリーは中程の堰堤を越えて上手のト口場に入る。

一方、下手のト口場は出だしは各々フライやルアーとまちまちだが、放流時刻が近づくとお決まりの様に皆一列に並んでルアーを引いた。

やがて放流が始まると入れ食いになり、持ち帰り族は次々とクーラーボックスに魚を放り込み、その日の数稼ぎに専念する。

そして当りが遠のくこの頃から各々ルアーを止めてフライに切り替え始め、二時頃になると殆どがフライロッドを手にしていた。

こうなるとヘタにルアー投げることもできず、皆お決まりの様にシモリ玉の浮き釣り（今で言えばルースニング）一色となっていた。

実際、当時のルアーでは午後から釣れることは皆無に近く、誰もルアーロッドには手を出さなかった。

ウェイダーを履いている者はあちらこちらに散らばり立ち込み始め、ウェイダーを履かない者は対岸へ渡って垂らし釣りをする。

その頃は上手の橋を渡った所にある「屏風岩」の前も、ルアー・フライ専用区で、こゝにはウエ

イダーが無いと釣りにならなかった。

私の場合、朝は下手のト口場でルアーを引き、午後はのんびりと屏風岩の前に立ち込み、メーカーが「ツツツウー」と走るのを確認してラインハンドを引いてフックアップさせる……いつもこんなパターンで釣っていた。

今では釣り人も多様化し、暗黙の了解はとつくに無くなってしまっている。

それどころか、ウェイダーを履いて立ち込もうものなら、全員から場荒しの眼差しで視られるだろうし、対岸に渡るだけでも嫌な目で見られるらしい。

……二十数年の時を経て、すっかり様変わりしてしまった。

北田原といえば、立ち込んで直視するメーカーの向こう側に映る屏風岩もなることながら、ライズ捕りに夢中になった柿の木の下、新緑の下……ドライフライで爆釣できる竹藪前……どれもこれも懐かしい限りである。

しかし、何と言っても……あの名物組合長を抜きにしてこの北田原は有り得ない。

年が明けると上のト口場に氷が張る。

「おえー氷割るさかいどかんんかい！」

「あんなん割れんの？」

「割らな前ら釣りでけへんやろー！……と、慣れた手付きで氷を割って行く。

ある年末……

「おう！……今日はどないやー！」

「まあまあ……それよりこの木（柿の木）邪魔やわあ〜」

「……何ぬかしとんねん！……そろそろベテランになったやろー！……引掛らん様に投げんかい！（笑）」

「わかっとんねんけど……ついつい引っ掛けてまうわー！」

「この木いっくの下は……皆同じ様なことしとんのお？……この木い切ったら、ここから魚が上がらん様になるわい……」

「どうなん？」

また、ある年の桜が終わった頃……

「おお〜う！……集金にきたぞあ〜……おマはん……どこまで上がったとんねん！」

「ここエエわあ……爆釣！（笑）」

「水面で食わしとんか？……この時期、元気な奴はここまで虫喰いに上がりよるさかい……それもこの木いっく（竹藪前の大木）があるからや……」

「どうなん？」

80年代後半……

「もう屏風岩の前はやめたん？」

「モリできるかえ〜！……金払わんと入る奴がおるー！」

「どうなんや……」

しかし……時々、そっと忍び寄り……小声で……「今日は上（屏風岩）行けるぞ……先だって団体あつて入れたんや！黙って行けよ！」

「おおきに……」

そして80年代に突入……

「おい！ベテラン久しぶりやないかあ？どないや？」

「浅なつたんちやう？……もっと深せんと……」

「文句ぬかすな！……ただけモリすんの大変や思とんじゃ！……開ける前に川底掃除して藻も取つてお前らの為にユンボまで使つてやっとなねんぞ！感謝して釣らんかい！」

「どうなんや……」

「当たり前じゃ！……夏越してそのまま開けてみい……枝葉川底に溜まるとるわ、藻生えとるわ……お前ら釣りにならんぞ……他とちにて引っ掛からんやろー！……手間喰うとんねんぞ！……感謝せいよ！（笑）」

更に80年代半ば……

「フラウン入れてえ〜やあ……」

「警戒めかすな！・・・どうせヤワイ(弱い)魚やる！・・・それも鱒かえ？」

「ヨーロッパ原産・・・」

・・・その翌年・・・

「入れたあゝるぞー！・・・日陰でシィとしとる奴やーアンマリ釣れん見たいや・・・釣れよ！・・・ついでにイワナも入れたったわー！」

「おおきに・・・」

・・・またまたその翌年・・・

「おうー久しぶりやのうー！・・・イトウ入れたあゝるぞー！・・・お前がよあゝるとこに溜まっとるわー！・・・釣れよー！」

「嘘やろあゝ・・・」

「嘘なことあるかい！・・・よう釣らんのかべテランがあゝ！・・・やってみんかい！」

・・・そして・・・

「釣れたわー！」

「見てみい・・・入れたあゝるやるー！(笑)高こおついてんぞー感謝せいよー！」

2000年代に突入しても相変わらずだった。

そして、ある年の二月末、オープン1ヶ月後の様子見に行くと、川底が枝葉だらけで、藻もあちこちに点在している。

(なんじゃい！これ？・・・組長・・・手えく抜いとんなあ？)

「組長は？」

「・・・」

「今日はおらんの？」

「・・・亡くなったんですわ・・・今年の正月・・・」

「(嘘やろう)・・・絶句して舌を失った。

その年の正月、あれだけ慣れた手付きで氷を割っていたにも係わらず、その最中の事故で無くなったと伺った。

その日はどこで釣っても組合長の「おうー感謝せいよー」が胸中で駆け巡った事を覚えている。

残念なことに、その年から釣り場の環境は大きく変わって行った。

今の組合の方々には非常に申し訳ないが、やはりあの名物組合長を失った釣り場の環境は日に日に悪くなって行ったと思う。

程なく、あの組合長が重視していた「柿の木」と「竹藪前の大木」は伐採され、日当たりがよくなったが、かつて組合長が言っておられた通り、魚が上がらなくなってしまった。

柿の木前ライズも安定しなくなり、その上手のドライフライ爆釣ポイント竹藪前は全く魚影が確認できなくなってしまった。

やはり、釣り場を作り上げる方の想いは並大抵のものではないと思う。その想いが消えると崩れる様になってしまう状況を目の当たりにした。

管理釣り場であれ一般河川であれ良い釣りが

できるところは必ずその釣り場を守り維持することに熱意を注いでいる方が居られることを忘れてはならないと思う。

「おうー感謝せいよー」が口癖だった組合長、20代の頃は(客に向かって何ぬかしとんねん?)と思ったこともあったが、40半ばを超えた今、本当に亡き組合長には心底感謝している。

■北田原虹鱒釣り場の二案内

昔の話がついつい長くなってしまい恐縮だが、それくらいこの釣り場へは想いが強い。

ルースニングから始まってそれこそ様々な釣りを二二で実践し、練習してきた。

昔ほどではないが旧柿の木前は今でも年末あたりからミッジのライズ捕りが練習できる。

昔のままで落とさないとかダメな時もあるが、昔のままで充分行けるともある。

まあ、普段は昔の前後が安全だろう。

その昔、4月の半ばから連休明け終了までドライフライ爆釣の匹オバーが約束された竹藪前のポイントは今ではサッパリ釣れなくなりました。昔の前後で溪流に持ち出すとってことない毛鉤でバンバン釣れて、鬱憤晴らしには最高だったが、今ではその香りもない。

ルースニングは、昔はブラックモンタナカウイリーバグが、そしてリーチ等、中でもバンバン釣る連中はグローバグかオクトパスボムなんかを使っていたのかも知れない。正統派はヘアーズイアーのニンフやスカッドを使う者も居たことは居たが・・・最近では私は殆どやらないので傾向を書くこともできないが、きっと一般的なやり方で行けるんだろう。

80年代後半から人も増えだし、その頃からマーカーを外して水面直下をミッジピューパを引いてみたり、マイクロポッパーで引きずりだしたりとあの手この手でやっていた。

今となっては年末の釣り納めか年始の釣り初めに訪れるのと、溪流シーズン開幕の滑り出しが上手くいかない年に鬱憤晴らしがてら4月末GWに訪れる程度となってしまった。

今現在、お勧めと言えば上のトロ場から下のトロ場への落ち込みとその流れが作り出す筋でウエットのローテーションを試すのが楽しい。

もし、ウエットでとにかく釣って見たいと御思い方は一般溪流でウダウダやるよりも3月以降の暖かい日を選んで午後からでも出かけるんですよ。

上のトロ場の堰堤に立ち、下のトロ場に落ち込んだ流れの筋をダウンクロスで逆引きするだけで、余程のことが無い限り元気な鱒が水面でひたたくるハズである。良いときは10匹くらい釣れ続くこともある。消沈すれば2時間くらい待てば魚がまた入り込んでくる。

毛鉤はウエットなら何でも良いが、迷うならプロフェッサーやグリスリーキングなど巻き易く使いやすい毛鉤でよい。ドロップパーを一本付けると更に効果が出る・・・と思う。

良い日はダブルヒットに注意することかな?・・・今の所は・・・

でもやっぱり、組合長が居られた時代には敵わない・・・色んな経験をさせてもらった北田原虹鱒釣り場、そして名物組合長・・・おおきに感謝しとりませう

心から二冥福をお祈り申し上げます。

2007年 2月

